

## 東南アジアの環境課題に対する将来的な協力を推進する戦略対話

1. 開催日：2026年5月27日（水）、28日（木）

2. 場所：5月27日 ステーションコンファレンス川崎（川崎市）

5月28日 ラボ・施設見学（川崎市環境総合研究所、島津イノベーションプラザ）

### 3. 背景

アジア大気汚染研究センター（ACAP）は、アジア地域における大気環境管理に関する地域協力を推進する国際プラットフォームのハブの役割を担っているが、今後、アジアの大気環境改善を促進するためには、関係する政府機関、国際機関、研究機関と連携して、科学的根拠に基づく政策貢献、能力開発、ならびに他の環境課題との同時解決策の提案・発信を強化する必要がある。

#### 3.1 主要な地域パートナーとの連携の必要性

東南アジアの環境を取り巻く状況は絶えず変化しており、研究機関、国際協力機関、政策プラットフォーム間の連携強化がますます重要となっている。越境大気汚染、短寿命気候汚染物質（SLCP）、有害化学物質の漏出、廃棄物管理といった課題に対しては、政策支援、専門的知見、地域的な実施ネットワークを組み合わせた統合的かつマルチステークホルダー型のアプローチが不可欠である。このような背景のもと、ACAPは以下の機関およびイニシアチブとの連携強化を提案する。

- 国際連合環境計画（UNEP）

国際社会における環境保全の中心的な役割を果たす機関であり、条約の管理、政策支援、持続可能な開発の推進、環境教育などを通じて、地球規模の環境課題に取り組んでいる。

- 国連開発計画（UNDP）

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて各国を支援する主要なグローバル開発パートナーであり、ガバナンス、気候変動対策、持続可能な都市開発、統合的な政策ソリューションに関する豊富な専門知識を有している。UNDPは、資金調達、各国レベルでの実施支援、大気質、気候変動、公衆衛生を結びつける分野横断的なアプローチの推進において重要な役割を果たしている。

- アジア開発銀行（ADB）

アジア太平洋地域における持続可能な開発を支援する主要な多国間開発金融機関であり、環境管理、気候変動の緩和、都市開発、および地域協力の取り組みに積極的に取り組んでいる機関。

- ドイツ国際協力公社（GIZ）

環境ガバナンス、気候変動対策、持続可能な都市開発を支援するドイツの国際協力機関。開発協力枠組みおよび地域プログラム支援（SEACAIを含む）を通じた政策対話および都市レベルでの実施ネットワークを構築。

- 東南アジア・クリーンエア・イニシアチブ（SEACAI）

東南アジア地域における大気質管理、科学と政策の連携、都市レベルでの実施支援に重点を置く地域プラットフォーム。

- アジア災害防止センター（ADPC）

気候変動へのレジリエンス強化、災害リスク軽減、持続可能な開発を推進する地域機関。

- アジア工科大学院（AIT）  
環境工学、気候変動、持続可能な開発分野における研究および能力開発を推進する国際的高等教育機関。
- 国際協力機構（JICA）  
日本の政府開発援助（ODA）を担う実施機関であり、技術協力、人材育成、資金協力を通じて持続可能な開発を支援している。大気汚染対策、気候変動緩和、廃棄物管理、二国間クレジット制度（JCM）などの環境管理分野において豊富な実績を有しており、東南アジア地域における地域協力の促進や政策実施において重要な役割を果たしている。
- 横浜市  
環境未来都市として脱炭素化や再生可能エネルギー導入、省エネ施策を強化し、都市スケールの気候変動対策と市民協働型の環境政策を推進する自治体。

以上のパートナーと連携することにより、以下が可能となる。

- 地域の大気質および環境分野の取組の調整
- 開発支援プログラム間の連携強化
- 大気汚染対策、廃棄物管理、排水処理、気候レジリエンスの相乗効果の特定
- アジアにおける科学と政策の連携強化
- 将来のネットワーク/プラットフォームの構築

### 3.2 環境省との戦略的パートナーシップの必要性

環境省（MOEJ）は、大気質ガバナンス、環境管理、持続可能な都市開発の分野において、アジアにおける地域環境協力を長年にわたり主導・支援してきた。本対話において、国内外の大気・水等の地域環境管理を所掌する環境省水・大気環境局等の関係部局と以下のような戦略的議論を進めることは極めて有益である。

- 日本の地域環境協力の優先事項との戦略的調和について
- 将来的なフォローアップ協力に向けて

### 3.3 日本環境衛生センターの役割

日本環境衛生センター（JESC）は、環境衛生、廃棄物管理、公害防止に関する研究、技術的解決策の提供および能力開発を推進する中核的機関である。専門的知見および研修事業を通じ、日本およびアジア地域における持続可能でクリーンな都市システムの実現に貢献している。JESCの支部組織であるACAPは、国際的な調査研究機関として東アジア地域の大気質改善に大きく寄与している。また、ACAPは東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）のネットワークセンターとしても機能している。本年はEANET設立25周年という重要な節目にあたり、将来の地域協力に向けた戦略的な対話を行う好機である。

## 4. 戦略対話の目的

本戦略対話は、将来の協力関係の構築を目指して、以下の論点を中心に議論することを目的とする。

- 機関間関係強化
- 大気、廃棄物、排水管理分野における将来協力の検討

- 戦略的優先事項および地域的視点の共有
- 共同取組および連携型プログラム形成の機会の特定
- 持続可能な都市および環境発展に資する協力の方向性の明確化

## 5. 議論の内容

未来志向の幅広いテーマについて議論する。

### 5.1 大気質管理と環境ガバナンス

- 地域協力および政策対話の強化
- SLCPへの対応
- 越境煙霧および大気汚染に関する協力強化
- 科学的知見と地域政策枠組みとの整合

### 5.2 機関間パートナーシップおよび協力枠組み

- 会議参加機関間の協力分野及び形態の探求
- フォローアップ活動および共同計画に向けた優先分野の特定
- 共同コンセプトノートまたはパイロット事業の検討

### 5.3 環境持続可能性に向けた統合的アプローチ

複数の環境課題の同時解決に向けた統合的アプローチに関し、以下の論点について議論する。

- EANET設立25周年を契機として、これまでの成果を総括し、大気および気候分野における将来の地域協力の新たな方向性を検討する。
- 東アジアおよび東南アジアにおける大気問題の変化を踏まえ、モニタリング体制、データ活用、科学と政策の連携強化を含む地域協力の高度化を図る。
- PM2.5、オゾン、その他の大気汚染物質への対応に向けた共同アプローチを特定する。
- ブラックカーボンやメタン等のSLCP削減に向けた統合戦略を推進し、大気浄化および気候変動緩和の双方に貢献する。
- 都市レベルにおける気候・大気質関連リスク評価に関する協力を強化する。
- 東南アジアにおける（災害）廃棄物管理・排水処理システムと気候変動対策の統合的アプローチについて議論する。

## 6. 想定する参加者（招待制）

戦略的な対話を確実に行うため上級レベルの担当者を中心に30名前後の参加者（日本からの代表者を含む）を想定。

## 7. 期待される成果とアウトプット

- 組織間の関係と相互理解の強化。
- 特に大気質、廃棄物、排水管理における将来の協力分野の特定。

- 潜在的な共同イニシアチブに対する戦略的方向性。
- 継続的な関与のためのフォローアップアクションと焦点についての合意。
- 初回の戦略対話の具体的なアウトプットとして、各機関の取組み等を掲載し、情報交換を継続しうる情報プラットフォーム（英文）をJESC/ACAPのウェブサイトにも立ち上げる。

## 8. フォローアップ

- 会議後に議論の要約メモを配布する。
- 継続的な調整を維持するために連絡窓口を決める。
- ACAPは各機関が協力・連携するコーディネーター役を担う。
- 潜在的な共同イニシアチブはさらに詳細化され、共同プロジェクトのコンセプトノートや提案に発展する可能性がある。

## 9. プログラム案（言語は英語のみ）

### 5月27日のプログラム

時間	セッション	機関
9:00～9:30	受付	
9:30～9:33	開会のご挨拶	大原所長（ACAP）
9:33～9:38	ご挨拶	大森局長（環境省水・大気環境局）
9:38～10:00	歓迎のご挨拶及び基調講演	南川理事長（JESC）
10:00～10:50	各機関の紹介と戦略的優先事項（各機関10分）	MOEJ、UNEP、UNDP、ADB、GIZ
10:50～11:00	コーヒープレイク	
11:00～12:00	各機関の紹介と戦略的優先事項（各機関10分）	SEACAI、ADPC、AIT、JICA JESC、ACAP、横浜市
12:00～13:30	ネットワーキングランチ	
13:30～15:30	今後の協力に関する議論：大気質と環境ガバナンス地域協力に関する対話	参加者全員
15:30～15:40	コーヒープレイク	
15:40～16:40	今後の協力に関する議論：廃棄物、排水、統合環境管理	参加者全員
16:40～17:00	総括的な考察と次のステップ 閉会のご挨拶	Siwaporn副所長（ACAP）
17:00～17:30	MOU締結式	AIT、ACAP
18:00～	懇親会	南川理事長（JESC）

## 5月28日のプログラム

時間	セッション
9:30～12:30	ラボ・施設見学（川崎市環境総合研究所、島津イノベーションプラザ）